

九州周遊 建築散歩

第21回(2月9日)
宗像・津屋崎

古来から海を中心に栄えた文化と 知られざる現在建築を探索する。

第21回目の「九州周遊建築散歩」は、日本最古の歴史書と言われる「日本書紀」にも記載がある宗像の地と、日本一の大注連縄で有名な宮路嶽神社がある津屋崎を中心に散策します。また改めて調べてみると、宗像・津屋崎には思った以上に興味深い近代・現代建物がたくさんありました。一番寒い時期の建築散歩になりますが、久しぶりに本格的な建築散歩です。散歩のつもりで気楽に参加してみませんか？

宗像大社と宮路嶽神社

宗像の地は、中国大陸や朝鮮半島に最も近く、外国との貿易が進んだ文化を受け入れる窓口として、重要な位置にありました。宗像大社は天照大神の三柱の御子神を奉った由比著ある神社です。なお神宝館には、日本の古代史をひもとく上で貴重な資料が数多く、蔵品のほとんどは国宝・重要文化財(8万点)に指定されています。

開運、商売繁盛の神様として知られる宮地嶽神社は、長さ13.5m、重さ5tの日本一の大注連縄と、牛の一枚皮でつくられた大太鼓、大鈴があることでも有名です。広大な神苑内には、3000本の桜や牡丹、江戸菖蒲などが植えられ、開花時期は大いに賑わいます。

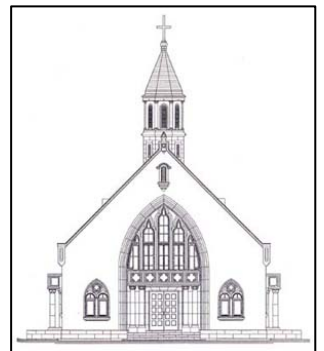
また、津屋崎は津屋崎千軒を今に伝える藍の家（津屋崎千軒民俗館）と全国各地から移築・復元された古民家が佇む宮地嶽民家村自然広苑を見学する予定です。



上：宮路嶽神社
左：宮地嶽民家村
自然広苑



上：宗像大社
左：東海大学付属第五高等学校
右：カテドラル・ザビエル教会
下：藍の家（津屋崎千軒民俗館）



宗像・津屋崎の現在建築

宗像では、1949年に建てられた木造教会で1998年に解体された鹿児島カテドラル・ザビエル教会（鹿児島市照国町）の旧聖堂を復元するプロジェクトがNPOの手によって進んでいます。また、東海大学の教授でもあった建築家山田守は、宗像市の東海大学付属第五高等学校を手掛けています。この高校の平面はY字の平面をしており、既に取り壊されてしまった九州厚生年金病院とよく似ています。

なお、宗像大社の横には福岡出身の建築家村野藤吾のガソリンスタンドが存在しています。

見学予定箇所（順不同）

- 宗像大社・神宝館
- 宮地嶽神社・民家村自然広苑
- カテドラル・ザビエル教会
- 藍の家（津屋崎千軒民俗館）
- 東海大学付属第五高等学校（山田守：1967）
- 出光興産宗像給油所（村野藤吾：1972）

「九州周遊建築散歩」では次回以降も様々な地域の建築を散策します。分野や専門にかかわらず建築に興味がある方は是非ご連絡下さい。

連絡先：北九州大学国際環境工学部環境空間デザイン学科
代表：EA姜優子 (kang@env.kitakyu-u.ac.jp)
事務局：専任講師城戸将江 (kido@env.kitakyu-u.ac.jp)

<写真・文章>

宗像大社 <http://www.munakata-taisha.or.jp/>
ALL-A <http://blog.all-a.net/>
宗像の小（笑）市民 <http://gafuya.blog.drecom.jp/>
村野藤吾・人と建築 <http://www.togomurano.com/>
宮地嶽神社 <http://www.miyajidake.or.jp/>
福津市 <http://www.city.fukutsu.lg.jp/index.php>
集落町並みWaker <http://www.shurakumachinaminatsu.gs/>